


たんぽぽ



NO16
S63, 10月1日
—発行—
〒869-12
熊本県菊地郡
大津町森54-2
社会福祉法人
三気の会
三気の里
TEL096
293-8100

しあわせの

つどい

理事長 田中 稔

九月十七日、十八日に熊本県心身障害児者親の会連絡協議会主催の第十回『しあわせのつどい』が開催されました。各障害団体がこの様にまとまって、ひとつの協議会を作り、共通のテーマを話しあっている県は全国的にもそう無いのではないのでしょうか。

この会に出席し、見聞きした幾つかの事について記してみたいと思います。まず初めにこの連絡協議会が相互に問題をかかえながら、理解と協調に年々一歩一歩前進し、しっかりした力強いものになってきているという事です。次に色々な経緯があっ

て、各障害団体に分かれている事について、これからは相互の

整理統合等も話し合われる時代になりつつあると思います。近い将来、熊本市育成会が願望としておりました作業所作りが、熊本市の百年事業と相乗りの形で実現する事になった様です。そうなれば、育成会と保護者連合会は従来、その子供達の年令による生活の場の違いがあるだけで大部分は同一のものであると思われまますのでこれらが別々に存在する理由は無いのではと思えます。

又、どの団体も共通の問題として一人一人の『親の自覚』という事があります。社会参加という事が言われ続ける中で、ま

あり得ないわけです。特に父親にその点が強く求められていました。

各団体の役員をされている方でさえ、母親のみが一生懸命というありさまです。

最後に障害にかかわらず、どの親も自分が亡き後の子供達の生活の場という事を切実な問題として考えておられます。

ここ二週間の間に今後作られる事がほぼ決定している4つの施設の事を聞く機会がありました。

大分、佐賀、鹿児島と各県に自閉症を中心とする更生施設が出来の様です。十七日には又、前述の熊本市の作業所の事を、十八日には日田市の通所授産施設の理事の方々が三気の里を訪ねられ話を聞く事が出来ました。これらの5つの例に共通する事は、親自らが協力、努力しあ

負担するという方法をとっておられます。

これからの福祉は親自らが参加し、共に責任を分担していくというような事が一般化していく事になると思います。

今、三気の里の保護者会にも問われている事はまさにこの事なのです。

療育シリーズ

NO 16

手のひらから

の信号号

園長 土井 尚典

帰園して来た日の入浴で、私の両手首をしっかりと捕まえて身体を洗わせてくれない園生がいます。じっと目を見て、不安を表すかのように腕を突っ張りがっしりと手首を捕まえています。別の園生が入浴中、窓を開けてチンチンブラブラで外を眺めている事があります。『ワァ、

ー、恥ずかしいから止めて、窓を閉めなさい。』と大声で叫ぶと身体を洗ってもらっている園生がとたんに身構えて、手首をクルクルまわして、手のひらが洗えなくなります。手首や手のひらを掴まれる事は不安を引き起こす事があるようです。

外出訓練では、もっと手のひらから色々なサインが伝わって来ます。不安のない時はゆったりと手がつなげます。不安な時は手のひらをしっかりと握ってきたり、反対に手を振りほどこいて来ることなどがあります。何か先を急ぎたい時は出来るだけ手を軽く握ったり、今にも飛び出した時は軽く肩に手をまわして一方の手で掴んできたり等します。街中では、遠くに犬のかげを見て急におびえたり、自分の家の車に似た車を見つけて喜んでんだり、おびえたりお菓子屋の前を通り過ぎて悔しがったり、顔には表さなくても手のひらで

反応しているのが伝わってきます。ジュースの自動販売機を見つけた時はさっと手のひらをゆるめて指先だけを握ったりします。手をつないでいると、その折々に本人の気持ちを言葉にしてあげる事が出来ます。『怖いね』『同じ車だね』『お菓子食べたいね』等々です。

日常の生活では園生たちは、私達の想像以上にたえず周囲に気を配り緊張したり、喜んだり、安堵したりしています。そして、自分の気持ちを表現する事が下手な為に園生の気持ちを理解する事は大変困難です。しかし、手のひらは援けになります。園生の心の移り変わりを刻々と知らせてくれるありがたいコミュニケーションの道具となります。また、手のひらを通じて感じた園生の気持ちをかわりに表現してあげることにより、情緒の発達を促す援けともなります。

園生と仲々共感出来ない場合

も手のひらから園生の気持ちを理解することも出来ると思えます。おおいに手をつないでみましょう。まずは御夫婦や恋人同志で手をつないでみて下さい。恋人のいない方は、三気の里でボランティアしましょう。

夏休み特別企画 プール指導

今回、夏季帰宅訓練期間の余暇指導として、プール指導を行いました。前期8月8、9日／中期11、12日／後期18、19、20、21日と三期に分けて行いました。園には、残念ながらプールがないので、近くの菊陽ショッピングプラザサンリーのアスパに出掛けての指導となりました。園生の参加も多く、楽しく過ごせました。

昨年は、各班のレクレーションの時間を使ってプール遊びに行きました。そのせいか、プー

ルには、慣れていて、自分から泳ぐ園生が多くて、職員は、彼らに引きずられそうでした。と言いたいところですが、職員も一緒になってはしゃぎました。水を怖がるどころか、水に顔をつけてバタ足をしたり、潜ってみたりと長々と水に入っていました。

プール指導といっても、特に種々な泳ぎを教えるものではなく、水に親しんで、夏季の休みを楽しく過ごす程度のもので、ゆっくり楽しくやりました。皆、それぞれの思いがあり、お目当ての職員の水着姿を見て喜んでる園生、ただひたすら、流れるプールを歩き、水鉄砲を流している園生、何を思ったのか、プールサイドを小走りしキョロキョロしている園生、それから園生をよそに、女子指導員の首根っこをつかみ溺れさせようと必死になっている主任！など様々でした。

与気になる

栄木養の訃訃し

9月に入って、暑かった夏を忘れさせるような涼しい風が吹き出した頃……。三気の里の園生、職員の数人が発熱、下痢を伴う風邪をひいた為、全がゆ食を作りました。

今回はこんな時の食事、つまり消化の良い食べ物について書いてみました。

主食は全がゆとし、米1に水5〜6倍の柔らかさで炊きます。副菜は特に硬い野菜、例えばたけのこ、ごぼう、れんこんは避けます。硬い肉も除き消化の良い鶏肉とし、ひき肉又は薄切りとして用います。魚はエキス分の少ない淡泊な白身魚とし鯖、鰯、うなぎ、まぐろなどの脂肪の多いものは避けましょう。豆類は皮殻が不消化です。豆腐は消化の良い食品です。揚げ物は避け、特に香辛料は避けて調理しましょう。

興呂木

3 班・秋の新作コレクション発表！

皆さんから頂いた牛乳パックを使って紙すきを始めて、はや1年。そのパックも形を変えてようやく日の芽を見ました。はじめ啓三君のビニールをはがした紙をひたすらちぎって、コクリコクリする人もいた程ですが、今では皆、いくつかの仕事に分かれています。ミキサー係でミキサーと一緒に大奮闘している田中君と林君、ミキサーは『イヤ』『紙ちぎりをする』と言う高木君と福田君、水汲みとなると目の色を輝かす岡崎君に藤崎君、得意中の得意！。牛乳パックのビニールをはがしは高野君、パックを2枚にはがす係が満塩さん、すっかり紙すきの腕を上げた坂本さん、みんなで育てた千日紅で、この秋のハガキの新作コレクションを発表します。

どうぞ、よろしく！

4 班・大きくなーれ

夏祭りも終わり、一面とうもろこし畑だった4班の畑も、きれいに片付けてしまい、広い畑が淋しそうでした。キャベツやはくさいなんか植えようかと言っている矢先に、棚からぼたもちで、いつもお世話になっている玉永さんからたくさんのキャベツの苗を貰いました。早速5班のメンバーに手伝って貰って植えました。その隣りに白菜の種を直まきしました。慣れない手つきで、ちっちゃい種をパラッパラッとまきました。「ヤッター！」。後は水まきをして芽が出るのを待つだけだと思いきや、山中指導員の言葉でがっくり。何と、「種はまいたが、肥料は撒いていない」と、タワけたことをいっている。前途多難な4班です。あっはっはっ……

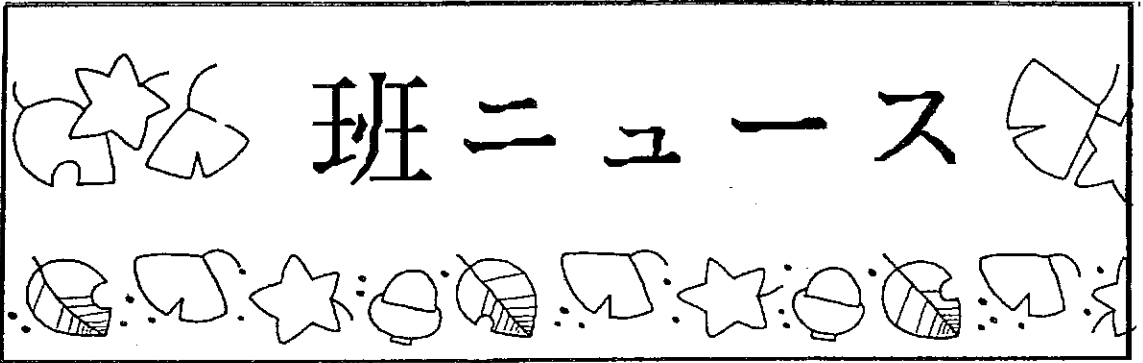
おおきくなーれ！

坂本

5 班・商売繁盛

我が5班の仕事は、畑の草取り、間引き、作業小屋の水道工事と、大繁盛なのです。まだまだたくさんの作業の依頼が目白押しなのですが、園生のみんなから、「にんじん掘りは、なかね」「ハウスの草取りはないの」という声が上がります。というのは、那須さんの「ドライブは？」たみさんの「西瓜おいしかったな」などなど、外に仕事に行く楽しみ、三気の里以外の人と話せる機会でもあり、何よりもおやつや、ドライブが魅力なのです。力仕事、草取り何でも頑張りますが、三気の外で働くのは本当にうれしいんです。冨田さん「なんば植えようか？」、那須さん「温泉はいつな？」宇都宮さん、「アイスが食べたか」と毎日、思いは違うけれど、色々な夢をふくらませながら外で働くことを楽しみにしています。坂井「アルゲンZが欲しか」

坂井



1 班・そこに山があるから！

今月15日の日に1班レクを行いました。最初、立田山ハイクを予定していたのですが、ボシタ祭りと重なり市内方面は混雑するだろうと予測のうえ急遽弥護山ハイクに切り替えたのでした。水場の休憩場を目指し元気に登り始め、張り切り過ぎた武ちゃん、足、腰の強さなら負けない潔君、除草しながら登るのぶちゃん、ボランティアのお姉さんとたくましく歩くマー君、汗を流しスマートになるんだとばかり必死のみっちゃん、笑顔で頑張るタっちゃん、みんなよく頑張ったね。でも今回一番頑張ったのが足元の不安な希久ちゃんでした。何度もこけながらも立ち上がり、苦手な山登りを征服したのです。それを助けてくれた正利君にも感謝です。水場の休憩場での川の水、とてもおいしかった。下山して来た時の満足感、最高の一日でした。

2 班・作業はチームプレーですよ！

『今日は何をするのか』『次に何をするのか』がわかりにくくなると、園生の動きがとたんに悪くなります。園内清掃作業からニワトリの世話、畑づくりと作業が増え、園生に仕事が変わりやすくなりました。そこで、チーム理論を利用し、一つの作業を3つに分解し、園生を1つの作業に対し3チームに分けました。風呂掃除では床、壁面、浴槽、ニワトリのエサ作りでは、草切り、貝殻、穀類ひき、配合、畑仕事では水まき、草とり、土よせ等です。一つの作業場面で職員が二人の時は声かけだけのチームを一つ作り、目が離せない園生を2チームに分け3チームがスムーズに動ける様に考えました。園生たちは作業の場所、内容、範囲が分かり易くなり、今のところ、作業中は遊んでいる園生がなくなりました。

『のん気』

・根気、二元気』

取材余話

毎日新聞熊本支局

伊藤 元信

『前略』でこそ始めませんが、この一文を手紙としてお読み頂ければ幸いです。

『こりゃあ大変な所を取材対象にしてしまった』というのが、『三気の里』を初訪問した時の印象でした。私の中ではつい先日、あの事の中でも、手帳をめくと、あれから5カ月。なのにショックは薄れません。その戸惑いから抜けきらないまま、県庁や県議会、自民党の参院選候補調整など『本来』の取材に忙殺されています。

ずうずうしくも『のん気、こん気、げん気』と題した連載は、七月十九日から九月九日まで計二十九回掲載されました。スタートは五月からの予定だったのが、同じ欄の一つ前の連載『赤

いトマトの旅』シリーズが、当初予定の十回程度から三十回にも延びたあたりで、大幅にズレ込んだ次第です。取材に快く応じて頂いた方々に、前代未聞の不手際を改めてお詫びします。

さて『戸惑い』の話です。初めて接したいわゆる多動型の自閉症の園生の皆さんにめんくらったのは、紙面の通りですが、『親の気持ち』が本当にわかりますか』という言葉を何度か突き付けられた時は、正直、絶句しました。若づくりをしておりますが、四捨五入すれば私は四十歳の方が近い年齢であります。なのに子供もないうまま離婚し、育児かれこれを知りません。『わかりますか』には、ふがいないくも沈黙で答えるしかありませんでした。執筆中からもやもやしていた、自閉症を文章で説明するのは困難ではないか、との思いは、今も変わりません。本を読めば確かに字ずらは理解出来ます。し

かし実相は迫ってこない。一度でも会えば、そんなうやむやも少しは晴れるのですが、ではそれを文章でどう伝えるか。

苦吟した揚げ句、私の感じた驚きや迷いをそのまま文章化する事にしました。私もあなた(読者)と同じ様に自閉症がわからない。いや、あなた以上に私はわからない。だからどうか、一緒に考えていただきたい。

今連載を終え、自閉症がわかったような口をきくつもりは毛頭ありません。たかだが何カ月かの取材。表面をなでた程度にすぎません。ただ私には『記者』という肩書があります。なにほどのこともない肩書ですが、当然のように人に会える特権は与えられています。『お前に何がわかる』とののしられれば、この武器を使って人から人をたどり、話を聞き続けるしかありません。その作業の中から、少しでも多くの事実を拾い、父母や

施設の思いの『近似値』に一步步近づいていく。そうありたいと思いついてきました。とはいえ『ありたい』と現実とは、常にそこをきたすもののように、今回の連載も『ここを聞きたかった』『あれも質問したかった』『もっと本音をえぐれたら』と、書く段になって、しゅん巡を繰り返す仕末でした。

田中理事長がおっしゃるように、自閉症は圧倒的な少数派です。私がそうであったように、一般にもなかなか理解されていません。土井園長や坂井さんがいわれた『この子たちが地域の中にいることが、あたり前になってほしい。かわいがられてほしい』という切なる願いがかなうことを祈らずにいられません。

第一、障害者は確実に存在するのに、その姿がみえない街など、とても健全な世界とは思えません。

実は取材の前、田中理事長と

自閉症など心の障害者の総合療育システムについて連載で触れると約束していたのですが、中途半端に終わってしまいました。今後の宿題とします。民間が引っ張って行政に風穴があく図式は、福祉の世界では珍しくはありません。がんばってください。

最後になりましたが、田中理事長はじめ施設や園生、父母のみなさんに、この場を借りましてお礼申しあげます。そしてこれをお別れでなく新たな出会いのあいさつとさせてください。



ただいま

食良岩土岩呂業末一中

朝7時前、食堂のドアがドンと開けてほしいと言わない

ばかりにたたかれます。だいたいの朝食の準備が出来る時、さあ食堂の開放です。そして、食堂での三気の里の皆のお手伝いの始まり。

最初に新ちゃんのお箸置きです。一度一つのテーブルに並べ置きそれから各テーブルにと置いてくれます。

松枝君は、食堂から厨房の中を総監督といったところでどうか、毎食後のように食器が洗い終り片づくまで食堂に居残ります。

おやつ片付けはタミさん、由美ちゃんです。『助かってます。』の一言です。いよいよ食欲の秋ですね。あまり大きな声では言えませんが、食事前に配善棚の中から誰も気づかぬ様に、ちょっと味見が時には3人分も……。こんな見事なお手伝い？に嬉しい悲鳴をあげている私達です。

10月の行事予定

1(土)	(やろう会)11(火)	21(金)
2(日)	12(水)	22(土) VO学習会
3(月)	13(木)4班ワ(元田 福田 田中)	23(日)
4(火)バスハイク	14(金)	24(月)誕生会
5(水)体重測定	15(土)防災訓練	25(火)
6(木)1班ワ(桜木 那須 上野)	16(日)	26(水)
7(金)	17(月)	27(木)2・3班ワ(坂本 満塩 村上)
8(土)帰宅訓練 父兄会	18(火)	28(金)大掃除
9(日)	19(水)	29(土)3班レク
10(月)	20(木)(高木 林 金森)	30(日)
		31(月)

日用品について

いつも、色々な御寄付を頂きありがとうございます。今回は、雑巾とタオルの御寄付をお願いしたいと思います。

毎日、午前九時半になると三気の里の廊下は、汽車拭きをする園生、職員でゴッタがえしています。『ヨイドン』の掛け声にのせて、雑巾での拭き掃除をみんなでやります。それだけに、雑巾が破けるのも早いのです。自分の部屋や家をきれいにする習慣をつけ、もっともっときれいな三気の里にしていきたいと思えますので、タオル地の雑巾(タオル地のものではない、園生がよくしぼれません)をよろしくお願い致します。

それから、御不要のタオルがあれば、御寄付下さい。食事の時や、洗面所で手を洗った後、みんなですべて使っています。よろしくお願い致します。

後援協会云だより

後援会新規会員紹介

水上昭雄

松田敏子

光山恵一

後援会継続会員紹介

金森英子

森田国勝

門田信成

古家あさお

※敬称略

9月22日付け

—— 編輯 佳木 俊 記 ——

AM 6時30分起床の時間。

窓を開けると、スーッと冷たい風が入って来るようになりました。でもそれは、心地よい風です。夜、AM 12時30分、窓を閉めないでスーッと冷たい風が入って来て「くしゃん」とくしゃみが出て来ます。そんな夜中、たんぼぼ16号のお目見えです。心地よい風は、寝ぼけまなこでなく、お目覚めと共に頂きたいもんだ。

(波多野)